

## 8. 1990年度ICU初級教科書単語リストの データベース化に関する中間報告書

鈴木庸子

〔はじめに〕初級教科書単語リスト作成の経過と本報告書の内容

1989年度にICU日本語教育プログラムでは新しい初級教科書を作成することになった。

まず、1989年秋学期にシラバス、各課の構成（イメージ、ドリル、フォーメーションなど）を討議し、決定した。シラバス及び内容の詳細は別稿を参照されたい。その後、6人のスタッフが教科書の執筆を担当し、相互に意見の交換を行い修正を重ねた。

1990年春学期に教科書の約70%が完成した段階で、データベース型ソフトを利用した単語リストの作成にとりかかった。単語リストは、各課に提示される新出単語リストと、単語・文法索引、教科書の単語分析用リストが作成できることをめざした。当初1990年ICU夏期日本語教育が開始される時点での完成をめざしたが、教科書の内容に関して変更が予想されたこと、作業上のルールについて不明確な点があったことから、夏期日本語教育前半が終了した時点で14課までを仕上げるにとどまった。

本稿は二部構成とし、第一部では単語リスト作成の作業にあたって考察し、とりきめたことから（確認事項および単語採取のルール）について報告する。さらに、今回の作業を通して明らかになった方法上の問題点を指摘する。これは、今後の教科書改訂作業に伴う単語リスト作成にあたり、方法の面で参考とするものである。

第二部では、今回作成した単語リストの内容を検討する。これは、教科書初版を単語提示の面から評価し、今後の教科書修正の参考とすることが目的である。ただし、このリストは初版の第14課までのリストであるため、全課にわたる分析、検討とはならない。

〔第一部〕初級教科書単語リストの作成について

### I 確認事項

単語リストの作成にあたって、次の項目を確認事項とした。

- 1 学生用の各課ごとの新出単語リスト、単語・文法索引、教科書の単語分析用リスト（教科書の属性を明らかにするため、後に教師が分析用に使用するリスト）は別のものと考え、三種類が作成できるようにする。
- 2 教科書に書いてあることは、（発展練習のセクションを除き）すべて採取し、第一次資料として、各課ごとの延べ語リストを作成する。例えば「わたしはがくせいです。スミスさんもがくせいです。」という文があった場合、「わたし／は／がくせい／です／スミス／さん／も／がくせい／です」の九つの

ことばを採取する。ドリルのキューとして提示された単語も採取する。  
この各課ごとの延べ語のリストをあわせて全課の異なり語のリストにすることにより（第二次資料）、もれや重なりのない新出単語リストや、索引、分析用リストができるはずである。

- 3 教科書に載っている言葉で、単語リスト用に採取する言葉を「採取語」と名付ける。「採取語」には、各語の情報として表1の項目を記述する。また、記述にあたってのルールおよび使用した記号は次の通りである。

1) 採取語の「:」の右のスペースには使用された例文をしめす。また、接頭語、接尾語であることを「~」によってしめす。

2) 場（各課の内容別の出現場所）は、次の記号で示す。

イメージ=A, フォーメーション=B, ドリル=C, 発展練習=D, 参考=E

3) 表記は、（教科書でひらがな表記であっても）漢字の表記を記入する。

4) 文法（1）は品詞を示す。品詞の分類と記号は次のように定める。

動詞=UV（U-verb, 五段動詞）、RV（Ru-verb, 一段動詞）、

IRV（Irregular verb, 不規則動詞（カ変、サ変動詞））、

名詞=N, 形容詞=AI, 形容動詞=AN, 副詞=ADV, 助詞=P, 固有名詞=PN,

接続詞=C, 表現=E

5) 文法（2）は、動詞、形容詞の原型（食べる、赤いなど）、いわゆる辞書の見出し語として載っている形を示す。

表1 採取語に記述される内容

No. _____
採取語 _____ : ( _____ )
課 _____
場（各課の内容別の出現場所） _____
表記 _____
ローマ字 _____
英訳 _____
文法（1）（品詞） _____
文法（2）（動詞、形容詞の原形） _____

## II 単語の採取のルール

単語を採取する際に最も大きな問題は、単語の区切り方である。単語の区切り方のモデルとしては、国立国語研究所の語彙調査で用いられた単位があるが、これは、おもに語彙の研究用に決められたもので、教科書の単語のリストのためには、必ずしも適切ではない（注1）。

今回の単語の採取では、新出単語リストの作成と同時に教科書で使われた単語の調査分析もできるリストの作成を目的としたため、その点も考慮して、以下のような手続きを定めた。これは、言語学、語彙論或いは形態論からではなく、リスト作成の段階で徐々に必要に応じて決められたものである。

### 単語の採取にあたってのルール

1 動詞、形容詞、形容動詞の活用形は、活用全体を採取する。

動詞：たべます、たべません、たべました、たべませんでした  
たべる、たべない、たべた、たべなかった

形容詞：あかいです、あかくありません、あかくないです、あかかった  
です、あかくありませんでした、あかくなかったです  
あかい、あかくない、あかかった、あかくなかった

形容動詞：しずかです、しずかじゃありません、しずかでした、  
しずかじゃありませんでした、  
しずか、しずかだ、しずかじゃない、しずかだった、  
しずかじゃなかった

(名詞のばあいは、独立させて採取する。)

学生／です、学生／じゃありません、学生／でした、  
学生／じゃありませんでした  
学生／だ、学生／じゃない、学生／だった、学生／じゃなかった)

2 いろいろな文末表現がつく場合も、全体を一語としてそのまま採取する。

動詞：たべたいです (あとは、形容詞と同様)

たべたり

たべませんか (誘いの場合)

たべましょう、たべましょうか (誘い、申し出の場合)

たべています

たべてください

たべないでください

たべてもいいです、たべなくてもいいです、たべてはいけません

たべなくてはいけません

たべに (行く)

形容詞：あかくてもいいです、あかくななくてもいいです、あかくてはいけ  
ません、あかくなくてはいけません

形容動詞：しずかでもいいです、しずかじゃなくてもいいです  
しずかじゃいけません、しずかじゃなくてはいけません

(名詞の場合は独立させる：

学生／でも／いいです、学生／じゃなくても／いいです

学生／では／いけません、学生／じゃなくて／いけません)

- 3 ただし、「～んです」は独立させる  
 動詞：たべる／んです、たべない／んです、たべた／んです、たべなかった／んです  
 形容詞：あかい／んです、あかくない／んです、あかかった／んです、あかくなかった／んです  
 形容動詞：しずかな／んです、しずかじゃない／んです、しずかだった／んです、しずかじゃなかった／んです  
 名詞：学生／な／んです、学生／じゃない／んです、学生／だった／んです、学生／じゃなかった／んです  
 しなくてもいい／んです
- 4 「～になる（変化）」は、全体を採取する。  
 動詞：たべるようになります  
 形容詞：あかくなります  
 形容動詞：しずかになります  
 名詞：学生になります
- 5 23課から34課（日本語3のレベル）では、学生用のリストに「辞書形、語幹」（以後原形とよぶ）をのせ、上記のような活用形は学生用の単語リストには載せない。
- 6 表現的なものは、全体をそのまま採取する。「すみません」のように二つ以上意味をもつ場合、どの意味で用いられているか区別できるようにする。  
 例：どうぞ、よろしく、どうぞよろしく  
 そうですね  
 それはよかったですね  
 どうも：＝ありがとう  
 すみません：よびかけ  
 いいえ：＝どういたしまして
- 7 第5課のあいづちの「そうですね」「そうですか」は、発展練習にリストで書かれているもののみ、教科書通りに英訳をつけて全体で採取する。それ以外のところで出ているものは、4番の約束に従う。
- 8 数字は、「1」に対して「いち、いっ」、「4」に対して「し、よん、よ」などの読み方があり、ふつうに、教科書に出て来るとおりに一般の単語として扱うと、それぞれべつの単語として採取されてしまう。そこで、今回は、数字について単語リストには、数字で、1から20までと、100（ひゃく）1000（せん）、10000（いちまん）、100000（じゅうまん）

最後に付録のページをもうけ、ここで、網羅的に数字全体をあげることにした。

### Ⅲ 作成した単語リスト

以上のようなルールで教科書の言葉をすべて採取し、データベース化したのち、17種類の単語リストを作成した(資料1)。これらから、さらに必要に応じて、単語の散らばりや使用頻度を計算したり、全体の異なり語リスト(索引)に変形していくことができる。

#### 資料1

- 1 動詞リスト(あいうえお順、各課ごとの異なり語のリスト。すなわち、「行く」が、一課と二課にあれば、2回リストに載ることになる。)
- 2 名詞リスト(同上)
- 3 形容詞リスト(同上)
- 4 形容動詞リスト(同上)
- 5 接続詞リスト(同上)
- 6 疑問詞リスト(同上)
- 7 副詞リスト(同上)
- 8 助詞リスト(同上)
- 9 表現リスト(同上)
- 10 五段動詞リスト(同上)
- 11 下一段動詞リスト(同上)
- 12 変格活用動詞リスト(同上)
- 13 その他の言葉のリスト(同上)(感嘆詞、はい、いいえ、等)
- 14 固有名詞リスト(同上)
- 15 全採取語リスト(出現順)
- 16 全採取語リスト(各課ごとのあいうえお順)
- 17 異なり語のリスト(各課ごとのアルファベット順)

### Ⅳ 単語リスト作成上の問題点

次に、資料1のリストを作成する過程で明らかになった方法上の問題点について述べる。

単語リスト作成上の第一の問題点は、動詞、形容詞などの活用部分(時制、受け身、使役、可能形など)や、「かもしれない、よう、そう、ている」などの文末の表現をどのように扱うか、つまりどのように文を区切ってどの要素を単語(あるいは単位)として採取するかである。

採取のしかたの可能性としては次の四つがあると考えられる。(かっこに記し

た名称は借りにつけたもので学問的なものではない。)

① (見出し語型)

活用形を無視し、独立語として認識できるものだけを採取する。「たべて、たべた、たべました、たべたり」などをすべて辞書の見出し語の形である終止形「たべる」に変形して一語として採取する。ただし、「たべるわけです」のような場合は、「わけ」を独立語として扱うことが可能なので採取し、「たべる／わけ／です(三語)」とする。

② (独立型)

文末の表現部分を小さい単位に区切り、独立させて採取する。「たべ／ました(二語)、たべ／て(二語)、たべる／わけ／です(三語)」などに分ける。

③ (かたまり型)

文末の表現を区切らずに、すべて含めてかたまりで採取する。「たべました、たべるかもしれませんが、たべて、たべるわけです」などそのままの形でそれぞれ一語としてリストに載せる。

④ (重複型)

①と③、②と③の両方を別々に採取する。「たべました」は「たべました(一語)」+「たべる(一語)」の計二語あるいは、「たべました(一語)」+「たべ／ました(二語)」の計三語になる。

これらの方法は、それぞれ一長一短がある。①の方法は、シンプルなりリストを作れる点が長所である。しかし、何を活用形とみなすかの決定が難しい。たとえば「たべた」は活用形の一つとして、「たべる」のみを採取すればよいが、「たべたり」「たべたい」のばあい、「り」「たい」を独立して採取すべきか、「たべたり」全体を採取すべきか、「たべる」のみ採取して「り」「たい」を無視して良いか、決定しなければならない。また、「り」「たい」を独立して採取するとすれば、なぜ、時制の意味をになう要素は採取せず、「希望」の気持ちを担う要素は採取するのか、いずれにせよ種々の面で文法的な整合性を保つことができないと言えよう。

また、「ました、でした、ではない」などの形態も完全に情報から消えてしまうことになるが、これらの情報が得られなくなることは、文法索引の作成を困難にし、教育的見地から教科書を評価する場合も大きな制約となる。

次に②の場合の問題点は独立させるべき要素を決定するのが難しいことである。同じ「過去」時制を表す要素でも「静か／でした」「学生／でした」は、独立させやすいが、「たべた」「たのしかった」のような動詞、形容詞の場合は独立させにくい。そこで、解決策としては、語感の上で抵抗があったり文法論からは不統一であっても品詞間の整合性を守って細かく区切るか、または品詞によって区切り方を変えるかどちらかの方法を選ぶことになる。

前者を選んだ場合には、さらに「たべ／た」の「たべ」をこのままの形でリストに載せるか、(①のように)「たべる」という辞書の見出しの形に戻すか決め

なければならない。

次に③の場合、非常に多くの情報を残せる反面、できあがるリストが煩雑になる。また「たべる」を一語とした使用頻度を算出するためには、一度完成したリストを基にさらに手作業が必要になる。また、文の型によって、たとえば動詞文や形容詞文では、「たべました、暑かったです」は良いが、「静かでした、学生でした」をそれぞれ一つのかたまりとしてとらえることには、語感からも文法理論からも異論があろう(注2)。これは、②の場合の裏返しと言える。

次に④の方法は、情報のもれがない点に利点があるが、②、③の持つ問題はそれぞれそのまま残る。また、独自の問題点として、この方法では一つの言葉を重複して採取することになるため、教科書の延べ語数と単語の頻度数を割り出すことができない。

このように、どのような区切り方にしてもそれぞれ問題が残ることがわかる。したがって、以上の方法のうち何を用いれば良いかは、最終的に作成する単語リストの目的によると言える。今回の教科書開発にともなって作成する必要があるものは、課ごとの新出単語リスト、単語および文法索引、教科書研究のための単語リストの三種類と考えられるが、それぞれ目的の異なるものである。そこで、次にそれぞれの単語リストのためにどのような情報が必要であり、上記のどの方法が適しているかを検討することにする(注2)。

まず第一に、課ごとの新出単語リストについて考えると、これは学習段階によって情報を変える必要のあるリストである。初めの段階では、単語リストに動詞の終止形だけでなく、活用形ごと載っているほうが親切であろう。しかし、初級も後半になれば活用形が常にリストに載っているのはかえって煩雑と言える。従って、新出単語リストを作成するにはデータベース化の際に前半と後半で単語の区切り方のルールを変えるか、先の③の方法で採取し作成したリストを課によって調整する必要がある。

次に単語索引を考えると、これはいわゆる独立語が辞書の見出しの形でリストに含まれていることが重要である。と同時に、初級の教科書としては「ます、です、た、て、ば、(た)ら、ん(です)」など文法的に意味を担う単位と考えられるものは、すべて独立させて単語索引に載っている方が便利である。これらは、文法索引としても当然作成されるべきであろうが、初級の学生にとっては単語として検索すべきか、文法項目として検索すべきか判断ができない場合が多いので、単語・文法の両索引に載せるべきであろう。

このような索引の作成のためには、先に延べた四つの方法のうち②の文末表現を独立させるやり方が適切と考えられる。その中でも活用形は終止形に戻す方法が適当であろう。

次に教科書研究のための資料としての単語リストは、ある言葉の初出はどの課か、次にどこに提示されるか、という単語の散らばり方を知る必要がある。また、その単語が全体で何回使われたかという使用頻度に関する情報が、重要である。

これらの情報のためには単語索引同様②の方法が適切である。同時に教科書研究のためにはある単語がどのような形（時制、活用形、肯定、否定など）で使われるか、その散らばりと頻度はどうかを調べることが必要である。「んです」「かもしれない」などがどのようなことばとともに使われるかを知ることが大切である。例えば動詞の現在形とともに使われるのはどこで、何回か、過去形とともに使われるのはどうか、名詞の文とともに使われる場合はどうかということがら、まったく恣意的に教科書の中にあるのではなく、教育的な見地からコントロールされている方が望ましいとすれば、その情報は重要である。

このような情報を単語リストに盛り込むためにはやはり、索引の場合とは逆に先の③のようにたくさんの情報が残せる方法が適切であろう。

さて、このように検討してみると単語リスト作成の問題点は、異なった目的をもつ三種類のリストを同時に作成しようとしたことにあると言える。そこで、今後の課題は、どの情報がどのリストのために必要なかを詳細に吟味し整理することであろう。田尾句に教育研究用のリストについては分析したいことがらを明確にしておくことが不可欠である。その上で三種類のリストに必要な情報がすべて網羅されるように工夫することが最も肝要と言えよう（注3）。

さらに単語の区切り方に関しては言語学、語彙論、形態論などの知見を検討し、単語採取のルールにその知見を取り入れることが重要である。その際には教育上の配慮と、先の三種類のリストという条件を考慮しながら、個別的に決定していかなければならないであろう。

## 〔第二部〕単語リストの吟味

本節では、「〔第一部〕初級教科書の単語リストの作成について」のⅢで示した単語のリストの内容を検討し、初版の初級教科書を単語の面から評価することを試みる。

評価の基準として、リバーズの述べている良い教科書の条件の中で、単語の管理に関係のある四点（表2）が参考になると思われる（リバーズ、1968）。これらを念頭におきながらリストの吟味を進めたい。

表2 単語の管理の側面から考えられる良い教科書の条件

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 語彙はうまく提示されているか。</li><li>2 課あたりの新出語の数はどうか。</li><li>3 提出された語彙は何らかの方法でまとめられているか。<br/>それは、巻末か。また辞書の形で載っているか。</li><li>4 類義語、反意語に注意が払われているか。</li></ol> |
|--|



まず名詞のリストを検討すると次のようなバランスの悪さが明らかになった。このような点は修正すべきである。

- 1 「あした」が多く、「きのう、今日、あさって」が少なく、「おととい」が皆無である。
- 2 「上、後ろ、駅、方（ほう）、研究室」は、重要な単語と考えられるが1回しか提出されない（一つの課にしか使われていない。）（注4）。
- 3 「海」は、1回だが「山」は3回出ている。午後は3回出ているが、午前は1回である。
- 4 もっとも多く繰り返し使われているのは「テレビ」の9回である。次に「日曜日、部屋」の7回、「テニス、新聞、くるま、日本語、ひる」の6回、次に「おふろ、でんわ、としょかん」の5回である。
- 5 ひとり、ふたり、ひとつ、ふたつ、みっつなどの数はおぼえにくいものであるから、繰り返し出す必要がある。
- 6 「右」は1回出ているが、「左」が出ていない。

次に形容詞は、1回しか使われていないものが26語、2回が14、3回が9、4回が6、7回が「いい」で1語である。もう少し多くの形容詞が、重ねて提出されて良いだろう。

活用では、終止形が104回、「～です」が25回、過去形が13回、現在の否定が7回、過去の否定形が4回である。否定の形をもう少しとり入れる工夫が必要であろう。

次に形容動詞は、1回しか使われていないものが19語、2回が7、3回が1、4回が1、5回が3である。もう少し多くの形容動詞が、重ねて提出されて良いだろう。

活用では、辞書の見出しの形が35回、「～です」が12回、過去形が5回、現在の否定が5回、過去の否定形が3回である。形容詞同様否定の形をもう少しとり入れる工夫が必要であろう。また、「な」をともなう形が14回、「に」をともなう形が9回、「で」をともなう形が2回である。

以上をまとめると、類義語、反意語に十分注意を払うこと、特定の単語（テレビ、くるま、日曜日等）が多用される傾向があるため、そのようなかたよりを減らすことが大切である。また、1回しか提示されていない単語の中には、このレベルでは必要のない単語が含まれていた可能性があるため、そのような単語は整理する必要があるだろう。活用の面では、過去形や、否定形などの種々の活用形を使うようにすることが必要であろう。

また、今回は、動詞、形容詞の連体用法と常体の終止用法を区別できないので、その点が区別できるように工夫すべきであろう。

[おわりに]

本稿は初級教科書単語リストのデータベース化を試みた過程とその中で明らかになった問題点、その解決のための今後の課題について述べた。

さらにこのデータベースから17種類の単語リストが作成され、そのリストの内容を検討した結果もあわせて報告した。

今後は改訂版の教科書のためにより洗練された方法で単語のデータベース化を進めると同時に、データベースを利用した教材研究の方法を開発していくことが大きな課題と言えよう。

謝辞 本稿で報告した単語リストの作成にあたり、データベース化を担当していただき数々の示唆をいただいた藤本泉氏、データの入力を担当していただいた渡辺久美氏、単語を英語に訳していただいたレベッカ・コープラン氏に心より御礼申し上げます。

注：

1 国立国語研究序の調査で用いられてきた単位には次のようなものがある。

M単位：型／紙／どおり／に／裁断／し／て／外出／着／を／作り／まし／た／。

β単位：型紙／どおり／に／裁断／し／て／外出／着／を／作り／まし／た。

長単位：型紙どおり／に／裁断／し／て／外出着／を／作り／ました／。

W単位：型紙どおり／に／裁断して／外出着／を／作りました／。

α。単位：型紙どおりに／裁断／して／外出着を／作りました。

α M単位：型紙／どおりに／裁断して／外出着を／作りました。

(国立国語研究所「日本語教育指導参考所12 語彙の研究と教育(上)」昭和59年 p.81より)

2 今回の単語リスト作成では、上記の①～④を折衷的に用いている(Ⅲ節参照)。そのため、採取のしかたに非常に整合性を欠いている。

3 あるいはこの三種類の目的のためのデータベースは一つで可能なのか、別個にデータベース化をする必要があるか、その点も検討課題である。

4 「一回」の意味は一つの課においてのみ使用されたという意味。その課内での提示頻度は、ここからはわからない。

#### 参考文献

- 1 国立国語研究所「日本語教育指導参考所12 語彙の研究と教育(上)」昭和59年
- 2 RIVERS, Wilga M., Teaching Foreign-Language Skills, The University of Chicago Press, 1986, p.370

## 付録

### 1 単語リストのサンプル

#### 名詞 (N) リスト

Mし : M市, *emushi*, M市, N, M-city, 371, 14, D  
Mまち : M町, *emumachi*, M町, N, M-town, 153, 14, C  
Nまち, *enumachi*, N町, N, N-town, 116, 14, A  
VTR, *viitiiiseru*, -, N, video tape recorder, 208, 2, C  
アイスコーヒー, *aisukohii*, -, N, ice coffee, 265, 2, D  
あいだ : NとNのあいだ, *aida*, 間, N, interval/space (between), 119, 9, B  
アクセサリー, *akusesarii*, -, N, accessory, 152, 8, C  
アクセサリー, *akusesarii*, -, N, accessory, 326, 18, D  
あさ, *asa*, 朝, N, morning, 90, 2, B  
あさ, *asa*, 朝, N, morning, 126, 3, C  
あさ, *asa*, 朝, N, morning, 164, 4, C  
あさ, *asa*, 朝, N, morning, 216, 6, C  
あさ, *asa*, 朝, N, morning, 32, 12, A  
あさごはん, *asagohan*, 朝御飯, N, breakfast, 128, 3, C  
あさごはん, *asagohan*, 朝御飯, N, breakfast, 231, 4, D  
あさごはん, *asagohan*, 朝御飯, N, breakfast, 39, 12, A  
あさって, *asatte*, -, N, day after tomorrow, 214, 6, C  
あしあと, *ashiato*, 足跡, N, foot print(s), 231, 18, C  
あした, *ashita*, 明日, N, tomorrow, 238, 6, C  
あした, *ashita*, 明日, N, tomorrow, 275, 11, B

#### い形容詞 (AI) リスト

- ✓ あおい, *aoi*, 青い, AI, blue, 193, 5, B
- ✓ あかい, *akai*, 赤い, AI, red, 90, 5, B
- ✓ あかい, *akai*, 赤い, AI, red, 54, 6, B
- ✓ あかい, *akai*, 赤い, AI, (It is) red. (informal), 184, 12, B
- ✓ あかいです, *akaidesu*, 赤いです, AI, (It is) red. (formal), 72, 11, B
- ✓ あかいです, *akaidesu*, 赤いです, AI, (It is) red. (formal), 183, 12, B
- あかかった, *akakatta*, 赤かった, AI, (It was) red. (informal), 190, 12, B
- あかかったです, *akakattadesu*, 赤かったです, AI, (It was) red. (formal), 73, 11, B
- あかかったです, *akakattadesu*, 赤かったです, AI, (It was) red. (formal), 189, 12, B
- あかありません, *akakuarimasen*, 赤くありません, AI, (It is) not red. (formal), 186, 12, B
- あかありませんでした, *akakuarimasendeishita*, 赤くありませんでした, AI, (It was) not red. (formal), 182, 12, B
- あかくて, *akakute*, 赤くて, AI, being red, 75, 11, B
- あかくない, *akakunai*, 赤くない, AI, (It is) not red. (formal), 187, 12, B
- あくなかった, *akakunakatta*, 赤くなかった, AI, (It was) not red. (informal), 193, 12, B
- あくなかったです, *akakunakattadesu*, 赤くなかったです, AI, (It was) not red. (formal), 74, 11, B
- ✓ あかるい, *akarui*, 明るい, AI, bright, 25, 5, A
- ✓ あかるい, *akarui*, 明るい, AI, It is bright. (informal), 352, 14, D
- ✓ あたたかい, *atataka*, 暖かい, AI, (It is) warm. (informal), 155, 8, C
- あたたかくて, *atatakakute*, 暖かくて, AI, being warm, 431, 11, C
- ✓ あたらしい, *atarashii*, 新しい, AI, new; fresh, 36, 5, A
- ✓ あたらしい, *atarashii*, 新しい, AI, new, 155, 6, C
- ✓ あたらしい : 新しい, *atarashii*, 新しい, AI, (It is) new. (informal), 46, 11, A
- ✓ あつい, *atsui*, 暑い, AI, hot, 183, 5, B

## な形容詞 (AN) リスト

あんぜん, anzen, 安全, AN, 143, 5, B  
 あんぜん: 安全, anzen, 安全, AN, safe/secure, 211, 11, B  
 あんぜん(な), anzen(na), 安全な, AN, safe, 314, 5, C  
 いや(な), iya(na), 嫌な, AN, unpleasant, 187, 5, B  
 いろいろ(な), iroiro(na), 色々な, AN, various, 359, 6, D  
 いんしょうてき: 印象的, inshooteki, 印象的, AN, impressive/memorable, 159, 11, B  
 おしゃれ(な), oshare(na), -, AN, fashionable, 142, 8, C  
 おなじ: 同じ, onaji, 同じ, AN, same, 19, 14, A  
 かんたん, kantan, 簡単, AN, easy/simple, 122, 5, B  
 きらい, kirai, 嫌い, AN, dislike/hate, 179, 7, B  
 きれい, kiree, -, AN, pretty; clean/neat (informal), 141, 5, B  
 きれい, kiree, -, AN, pretty/clean, 154, 11, B  
 きれい, kiree, -, AN, pretty/clean, 208, 14, C  
 きれい(な), kiree(na), -, AN, pretty; clean/neat, 216, 5, C  
 きれい(な), kiree(na), -, AN, pretty, 63, 6, B  
 きれいじゃありません, kireejaerimasen, -, AN, (It is) not pretty/clean. (formal), 151, 12, B  
 きれいじゃありませんでした, kireejaerimasendeshite, -, AN, (It was) not pretty/clean. (formal), 159, 12, B  
 きれいじゃない, kireejanaï, -, AN, (It is) not pretty/clean. (informal), 152, 12, B  
 きれいじゃなかった, kireejanakatta, -, AN, (It was) not pretty/clean. (informal), 160, 12, B  
 きれいだ, kireeda, -, AN, (It is) pretty/clean. (informal), 148, 12, B  
 きれいだった, kireedatta, -, AN, (It was) pretty/clean. (informal), 156, 12, B  
 きれいで, kireede, -, AN, being pretty, 363, 11, C  
 きれいでした, kireedeshite, -, AN, (It was) pretty/clean. (formal), 369, 11, C  
 きれいでした, kireedeshite, -, AN, (It was) pretty/clean. (formal), 155, 12, B  
 きれいです, kireedesu, -, AN, pretty; clean/neat (formal), 32, 5, A  
 きれいです, kireedesu, -, AN, (It is) pretty/clean. (formal), 132, 11, B  
 きれいです, kireedesu, -, AN, (It is) pretty/clean. (formal), 147, 12, B

## 2 データベース化作業の過程

作業順	文書ファイル名	作業内容
0	L #	本文の仕上げ (一太郎の文書ファイルに入力されている)
1	L #	本文から野線、不必要な部分をとる (採取語のみの本文)
2	L # A	採取語の単位に区切ってリストにする
3	L # B	採取語のリストにレッスン番号、場所を記入する
4	L # C	鈴木によるチェックと修正
5	L # D	リストに通し番号をつける
6	L # E	リストのソート
7	L # F	リストに品詞、ローマ字、漢字を記入する
8		コープランさんによる単語の英語訳
9	L # G	リストに単語の英語訳を記入する
10	L # H	レッスンの番号を変える (L 3 b を L 4 に、以下順に送る)
11	L # I	異なり語のリストにする